

◆舞鶴市立赤れんが博物館

昭和 100 年」関連施策実地レポート

このコーナーでは、内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室の室員が、各地で開催されている関連施策を訪問し、感想を含め皆様へご紹介します。

今回の訪問先は、舞鶴市立赤れんが博物館です。

昭和 100 年記念企画展「煉瓦の記憶－昭和を生きた舞鶴煉瓦の物語り」。

URL：[赤れんが博物館 昭和 100 年記念企画展 「煉瓦の記憶－昭和を生きた舞鶴煉瓦の物語り」を開催 | 舞鶴市 公式ホームページ](#)

この企画展では、明治期に近代化の象徴として築かれた鎮守府のれんが建築から、その主流が鉄筋コンクリートへと移り変わった昭和期の変化、そして現代における赤れんがの再発見と再生に至るまで、明治から昭和にかけての激動期を歩んだ舞鶴の赤れんが建築の変遷を紹介しています。

舞鶴市立赤れんが博物館（京都府舞鶴市字浜 2011 番地）の建物は、明治 36 年に建設された旧海軍の魚雷倉庫を活用した、現存する最古級の鉄骨れんが建造物です（国の重要文化財）。このエリアには、明治 34 年に舞鶴鎮守府（初代司令長官は東郷平八郎）が設置され、現在でも 12 棟の旧海軍の赤れんがの建物が立ち並んでおり（舞鶴旧鎮守府倉庫施設。そのうち 8 棟が国の重要文化財。日本遺産認定。）、これらの建物は「舞鶴赤れんがパーク」として、博物館のほか、イベント会場やシェアオフィス、市政記念館、ショップ等として活用されています。



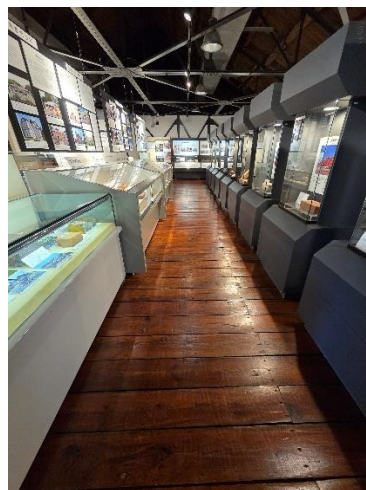
舞鶴市立赤れんが博物館



赤れんがパーク

◆舞鶴市立赤れんが博物館

博物館では、常設展示として、収蔵資料約2,200点のうち300点ほどが展示されています。エジプト文明や中国文明、ベルリンの壁やガウディに至るまで、古今東西のれんがが展示され、れんがや歴史的な背景等の説明パネルが設置されています。このようなれんがに特化した博物館はおそらく世界で唯一とのこと。



常設展示の様子

訪問日は、令和8年4月下旬。平日のお昼でしたが、外国人観光客も含め観覧者が熱心に展示をご覧になっていました。

展示は、3部構成、合計28点の所蔵資料で構成されています。



企画展展示風景

第1部 「明治期 舞鶴鎮守府のれんが一近代化の象徴から終戦へ」では、赤れんが博物館（旧舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫）の赤れんが、旧舞鶴海軍兵器廠大砲庫の赤れんががな

◆舞鶴市立赤れんが博物館

どが展示されています。れんが資料とともに、歴史的な背景や舞鶴の当時の写真や発掘調査の状況などについて説明されています。

第2部 「昭和期の建造物とれんが使用の変化」では、旧舞鶴海軍工廠第二造兵部関連施設のれんがや、防空砲台れんが、神崎煉瓦ホフマン式輪窯のれんがや瓦などが展示されています。関東大震災以後、れんが造から RC 造が主流になっていったこと、兵器工場においては耐火・耐酸に優れた多様なれんがが用いられたこと、などととも、舞鶴の街の昭和期の戦時下における軍施設設置に伴う移り変わりについて説明されています。

第3部 「平成から令和一赤れんがの再発見と再生」では、「舞鶴赤れんがパーク」の開設に至る市職員や市民グループ等のご努力の経緯について説明されています。旧海軍施設は戦後長らく、倉庫として使われたり、全く手つかずで放置されていたりしていたため、ツタが生え、通りは寂しく暗くあまり人が寄り付かない状況であったとのこと。取り壊し計画なども持ち上がったそうですが、舞鶴市若手職員が横浜市へ視察に行った際に、赤れんがの建物を活用した街づくりの動きを知り、保存の機運を高める市民運動に発展し、赤れんがの建物群の歴史的価値が明らかとなり、保存・活用に至ったとのこと。

かつて軍港都市であった舞鶴。街の象徴である「れんが」を通して、歴史的背景と街の移り変わり、今も街に残る戦争遺跡や歴史的遺産、これらを現在の街づくりのために活用しようとする市民の熱意。れんが資料と共に、写真・図等を用いて丁寧にわかりやすく説明されており、昭和100年を機に、平和で豊かな現在につながる街の歴史や人々の思いを感じとることができました。

博物館から車で約15分ほどのところに舞鶴引揚記念館があります。引き揚げやシベリア抑留を経験された方々の苦難を今に継承する数多くの展示資料。薄い防寒着、帰還を待つ人々の思い。平和な時代に生きている私には想像もできない苦難を多くの方が経験されていたことを改めて学ぶことができました。現在、生徒・学生を含む多くのボランティアの方々が中心となって労苦を継承する語り部の活動が続けられているとのこと。

会期：令和8年3月28日（土）～5月6日（水・祝）

主催：舞鶴市立赤れんが博物館

住所：京都府舞鶴市字浜 2011